

教職員自己紹介

林 悠平 (はやし ゆうへい)

実習助手

1977 年生まれ。滋賀県出身。私は中学校卒業後、エンジニアを目指し福井工業高等専門学校(高専)に進学しました。建て前ではコンピュータ技術者を目指すことを目標にしていたのですが、実際は、受験勉強に追われる高校生より、楽しく好きなことを何でもできる高専生に魅力を感じていました。はっきりいえば、みんなと同じことをすることが嫌いな変わり者なのかもしれません。同じような考えを持った同級生ばかりだったので、とても楽しい 5 年間で福井で過ごしました。その後、九州工業大学の 3 年生に編入し、福岡に移り住んできました。楽しい大学生活が待っていると思っていたのですが、学校とアパートの往復だけの生活で、高専時代のように思いっきり遊ばなかったのが心残りです。卒業研究では、携帯電話などで利用されている DSP とパソコンで利用されている CPU の処理性能の比較を行いました。その後、九州工業大学大学院に進学しました。大学院では FPGA と DSP を搭載したオリジナルのハードウェアの開発して研究を行っています。それまでプログラムしか作ったことがなかったため、IC の特性や基板の特性など初めてのことがばかりで苦労しました。そのおかげで、「理論を考える」よりも「ものを作る」ことが大好きになりました。私はひらめいたアイデアの利点欠点をよく考えるよりも、まずそのアイデアを実際に動作するシステムとして実現することを目指します。この癖は博士課程の学生としてはあまりよくないですが、プログラム初心者のうちほとんど思いついたアイデアをプログラム化していくことも大切だと思います。その際、分からないことも沢山あってあきらめそうになるかもしれませんが、その経験が自分自身を成長させてくれると思います。あきらめずに自分のできることを精一杯頑張ることはとても大切です。最後は、説教臭くなってしまいましたが、勉強に関しても、遊びに関しても、後悔の無いように学生生活を送って下さい。



立川 純 (たちかわ じゅん)

実習助手

地元は福岡で、小・中・高・大・院(大学院)と、田川/飯塚を含んだ筑豊地域です。大学では、特に PC 等の計算機のアーキテクチャ(つまり仕組み)を中心に研究を行っています。計算機は、ハードウェアとソフトウェアと大きく二つの仕組みから成り立っていますが、研究はその両方を対象として行っています。



特に、ハードウェアの研究としては、大学院まで計算機が計算機と通信するための専用のネットワーク機能などについて、提案し、それを実際に作って動作させてみるといったことをやっていました。また、そのハードウェアを計算機上で動作させるための仕組みについても研究しました。現在の計算機は Windows や Linux に代表されるオペレーティングシステムというソフトウェアが、ハードウェアを管理することで成り立っています。従って、ハードウェアを作ってもそれを動かすソフトウェアを作るために、オペレーティングシステムの機能を学ぶことが必要となっています。

講義では、現在数学(線形代数)と計算機アーキテクチャの TA として参加しております。特に計算機アーキテクチャは、私の研究分野では基本となっているところなので、こういった分野の面白さを体感してもらえればと思います。

1996 年 福岡県立田川高等学校卒業。

2000 年 九州工業大学情報工学部卒業。

2002 年 九州工業大学大学院情報工学研究科修士課程修了。

現在、九州工業大学情報工学研究科博士課程。